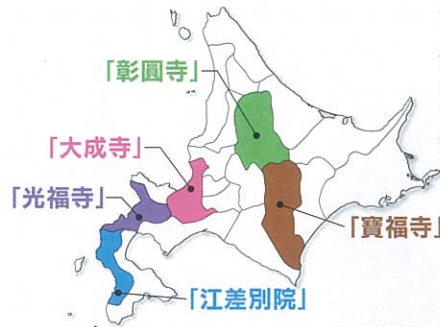


**御遠忌法要の記録 ⑦**

現在、教区内の若い方々による語り合いが進められている教区御遠忌は、一人でも多くの方に、それぞれの地域、それぞれのお寺で、御遠忌法要に、宗祖親鸞聖人に出遇ってほしいという歩みです。

各お寺や別院等からお寄せいただいたアンケート用紙や法要次第・写真等は教務所にて保存し、その願いと歩みを、未来の北海道へ引き継いでまいりたいと思います。



**第16組 彰圓寺(鷹栖町) 6月23日**

開基百周年記念法要厳修という勝縁に併せて勤められた。蓮如上人五百回御遠忌、開基住職・第二世住職坊守年回忌法要等も併修された。



少子化で懸念されていた稚児行列にも、たくさんのお可愛らしいお稚児さんが参列。法要中の表白では、金子大榮氏の『宗祖を憶う』(親鸞讃歌)が拝読され、お寺の歩みと宗祖に出遇う大切な法要となった。また法要後には、記念式典と祝賀会が行われた。

**第17組 寶福寺(鹿追町) 6月28・29日**

平成16年夏に新築された本堂の落成慶讃法要を、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌という勝縁に併せて厳修。開基住職五十回忌も勤められた。



記念法話は山名智月氏(清水町・淨蓮寺)。稚児行列では、地元の楽僧が奏でる美しい雅楽の調べの中、かわいらしいお稚児さんが境内や本堂を練り歩き、法要後の記念式典では、多くの方々々が表彰された。

**第3組 光福寺(蘭越町) 7月16日**

門徒の門徒による門徒のための法要と位置づけ、おみがき・清掃・仏華・お華束・当日の司会や挨拶・お斎等、すべて門徒の手で行われた。



蓮如上人の御遠忌以来、宗祖の御遠忌はゴールではなくスタートであることを願いと、青壮年の集いを大切にしてこられ、法要の写真やビデオの撮影、スライドショーの作成等、30代の青年の方々に活躍いただいた。

**江差別院(江差町) 9月1日**

約七年の歳月をかけた総合整備事業竣工を期し落慶法要を併修。五十年ぶりの大法要に向けて一人でも多くの来院を願、ご門徒と準備を重ね、当日は沢山の参詣で執り行われた。



実行委員会には新しい顔ぶれも多く参画して、別院に対しての内なる情熱が、御遠忌厳修により掘り起こされたとのこと。この活気をどう継承するか。「共に開法すること」を問いといた歩みが展開されていく。

**第4組 大成寺(当別町) 9月14日**

全国で初めて、完成したばかりの「御遠忌音楽法要(普及版)」を用いた御遠忌が厳修された。4年前から、「御遠忌法要を御門徒と共に勤める音楽法要で厳修したい」という願いのもと、法座ごとに「三帰依」と「回向」を歌うなど、ご門徒が御遠忌を考え宗祖を憶うことができるよう取り組まれた。



この音楽法要による御遠忌法要が、後の八〇〇回御遠忌へと繋がっていく大切なご縁となった。

北海道教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌実行委員会

[事務局] 〒064-0807 札幌市中央区南7条西7丁目290 北海道教務所内  
Tel 011(511)5211 Fax 011(512)3929 e-mail hokkaido@higashihonganji.or.jp